

資源回収を増やし、CO₂減らした名古屋市

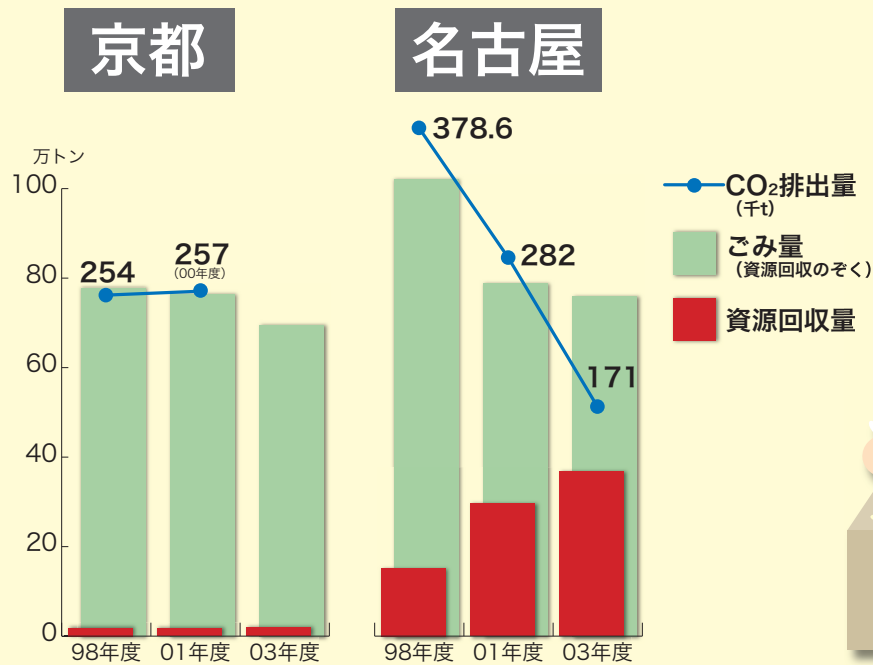
何でも燃やす京都市で
いいのでしょっか

名古屋市ではごみの分別を4種から10種に拡大。2年間で2割のごみを減量し、埋立量も3分の2に減らしています。プラスチックの焼却量が減ったことで、二酸化炭素排出量も20万トン減らしています。

京都市はどうでしょうか。資源回収量は増えないまま、「何でも燃やせる」大型の焼却施設をつぎつぎ建設。建設中の焼却灰溶融炉に230億円使おうとしています。談話が問題になっている東北部クリーンセンターには524億円です。



こんなに違う資源回収量



名古屋市は2700回も市民と対話
京都市はたったの200回?

もっとみんなの意見を



京都市は、学区で「意見交換会」を開いて広く市民の意見を聞く、と言っています。ところが名古屋市の2700回、横浜市は5500回に対し京都市は約200回。しかも全市民が対象になっておらず「知らなかった」との声が多く出ています。市長の言うパートナーシップも形だけです。

意見交換会でも、市の説明に「納得できない」「結論の押しつけだ」と批判が続出しています。有料化の押しつけてごみの減量はすみません。

「リサイクルより
有料化」
これが市長の本音です



ごみ減量には、分別・リサイクルの拡大と徹底が効果的なことは、他の都市の経験からもハッキリしています。

ところが市長は、「ごみ減量対策としてリサイクル施策に比べて(有料化は)より有効」と分別を否定するような答弁をしています(11月定例会市会)。

これは、もっと分別に協力できるし、ごみ減量に取り組みたいと思っている市民の意欲と願いに水を差すものです。

あなたの願い、市政・府政に届いていますか?

子どもの医療費無料化

府内30自治体に広がるのに、改善を拒否

いま府内30自治体が、府制度に独自上乗せをして対象年齢を引き上げています。ところが京都市は、制度の改善を拒否して、府による低い水準のままです。子育て支援は、市民の切実な願い。入院も通院も、無条件に小学校に入るまで無料にすべきです。また、窓口払いも改善すべきです。

30市町村が府制度に
上乗せ助成

(05年4月現在)
宇治市が年明けにも
拡大を表明

